

里山と生物・ビオトープ分科会

テーマ 里山まるごとビオトープ～人との関わりから生まれる生物多様性～

趣 旨

人が適度に手を加えること（稲作や山の手入れなど）によって、生物多様性が維持されている「里山の自然」を学術的に評価する。

第一部の事例発表では専門的・学術的な調査・研究の報告、評価などをそれぞれ分野ごとに発表し、人の手が加わることで生物多様性が維持されていることを明らかにする。

第二部のパネルディスカッションでは、午前中の発表者と県の職員をパネリストに、政策をふまえた里山保全と生物多様性の維持に関してディスカッションする。このディスカッションは、パネリストと参加者との対話型で実施する（結論を出すことを目的としない）。

スケジュール

10:00～10:10	主催者挨拶：里山シンポジウム実行委員会代表 金親博榮
10:10～10:40	基調講演：千葉県副知事 大槻幸一郎
10:50～11:03	里山での植物観察を通じて 細川 隆（千葉県立茂原高等学校）
11:03～11:16	昆虫から見た里山の変化 槐 真史（厚木市郷土資料館）
11:16～11:29	淡水魚類からみた谷津田の生物多様性 田中 正彦（千葉県立犢橋高等学校）
11:29～11:42	アカガエル類の卵塊モニタリング調査と谷津田保全 長谷川 雅美（東邦大学理学部）
11:42～11:55	鳥の目で見た里山の生物多様性 越川 重治（都市鳥研究会）
12:00～13:00	昼 食
13:00～14:40	パネルディスカッション コーディネーター：長谷川 雅美 パネラー：第一部の発表者及び 竹重貴志（県自然保護課）熊谷宏尚（県環境政策課）
15:00～15:45	各分科会報告（各3分） 生物・ビオトープ分科会発表者：田中 正彦
16:00～16:30	パネル討論「里山に託す私たちの未来、その現状と展望」 パネラー：堂本 暁子（千葉県知事） 大槻 幸一郎（副知事） 金親 博榮（実行委員会代表・千葉市森林組合） 小西 由希子（実行委員会副代表・ちば環境情報センター） 栗原 祐二（実行委員会副代表・千葉まちづくりサポートセンター） コーディネーター：中村 俊彦（千葉県立中央博物館生態・環境研究部長）
16:30	閉 会

メンバー

分科会 代 表：田中正彦

分科会副代表：網代春男

記 録 係：木幡英雄，網代春男

実 行 委 員：田中正彦，網代春男，木幡英雄，横山武，鈴木俊輔，染谷迪夫，高木純一，三輪浩司，
笹子全宏，高木晋，越川重治

当日スタッフ：橋本早苗（千葉大学園芸学部）、館野光輝（東邦大学理学部生物学科）

【シンポジウム】

<シンポジウムまでの予定・担当など>参加者 60 人として検討

・分科会のパンフレット作成

田中 松下優子

・謝金

パネラーには支払いなし、槐さんには交通費として支給

・必需品<数量>(調達者):スクリーン(有),PCプロジェクター(田中),OHP(県),マイク 3(県),
スライド映写機(田中),ポインター(高木純),プロジェクター・OHPの台<2>(県),
コードリール(県),長机 3人がけ<23(会場 20+パネラー・司会 3)>(有),
椅子<66>(有),マジック<黒赤青各 2>(三輪),セロテープ(三輪),OHPシート(越川),
裏紙(染谷),はさみ(染谷),発言要旨用紙(越川),ノートパソコン(木幡)

(注)参加者が予想を上回る場合に備えて、椅子と机を準備しておく。

・資料代：200円を(取る) 無料

・その他

<当日の役割分担>

・事例発表司会 (横山)

・パネルディスカッション司会(横山)

・受付(三輪)(鈴木)(橋本)

・会場マイク(染谷)(館野)

・発言記録(木幡)(三輪)

・写真(笹子)

・録音(木幡)(高木純)

・照明(染谷)

・PCプロジェクター・OHP・スライド(高木純)(館野)

・印刷物作成(会場用・パネルディスカッション用垂れ幕)(田中)(小西)

・シンポジウム全体の係(高木晋)

・その他

当日集合時間：5月15日(土) 8時30分

次回打ち合わせ：5月11日(火) 18時～

場所：ちば環境情報センター事務所